

# 弘大大学院一つに統合

## 7、8年後 全学挙げ「幸福」研究

### 弘前大学の大学院統合構想

- 人文社会科学研究科
- 教育学研究科
- 医学研究科
- 保健学研究科
- 理工学研究科
- 農学生命科学研究科
- 地域社会研究科
- 地域共創科学研究科

(仮称) グローバル  
ウェルビーイング研究科

記者会見で構想を説明する  
福田学長 27日午前、弘前  
大学文京町キャンパス



弘前大学(弘前市)は27日、現在全部で八つある大学院の研究科を7、8年後の一つに統合する構想を発表した。統合後の名称(仮称)は「グローバル・ウェルビーイング」(Well-being、幸福)研究を文系・理系の全ての分野に広げ、持続可能な開発目標(SDGs)の次の国際目標になるとの見方もある。ウェルビーイングの世界的研究拠点を目指す。大学院の統合はウェルビーイング研究に大学全体で取り組むための仕掛け。医、理工、農学生命、人文社会、

教育などこれまでの研究分野の垣根を越えて連携することで、新たな成果を生み出すのが狙いだ。2026年度から全ての研究科の修士課程にウェルビーイング関連のコースを設置し研究者を養成する。7、8年かけて研究科を統合し、研究領域をライフサイエンス・テクノロジー(生命科学技術)「ウェルビーイング ソーシャルサイエンス(社会科学)」「グローバルヘルス・予防医学」の三つに再編する方針だ。ウェルビーイングは「心身の社会的にも満たされて幸せな状態」。弘大は世界でも類を見ない規模の健康ビッグデータを生かし、心身と幸福の研究に取り組んできた。24日には文部科学省の

## 生き残り競争大きな一歩

国内大学の国際競争力低下が叫ばれている中、文部科学省は近年、世界に通じる研究分野に支援を集中させている。弘前大学がウェルビーイング(幸福)研究の拠点として「地域中核・特色ある研究大学」(地域中核研究大)

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」(地域中核研究大)の支援大学に採択、来年度から5年間で最大55億円の国補助が決まり、研究に弾みがついた。弘大は新年度、研究の中核を担う「グローバルウェルビーイング総合研究所」の所長に世界トップレベルの科学者を招く予定。研究

に選ばれたことは、大学間の生き残り競争に勝ち抜く大きな一歩になるとみられる。同省の研究機関によると、日本は注目度が高い論文数の世界ランキングで年々順位を落とし、2023年には過去最低の13位に入

成果を生かしてより良い社会づくりを目指す「ウェルビーイング社会実装本部」の本部長には弘大健康未来イノベーション研究機構長の村下公一教授が就く。この日の記者会見で福田真作学長は「国内外のトップ大学と連携し、世界的研究拠点をつくりたい」と強調した。村下教授は取材に

った。同省は世界トップレベルの研究大学を目指して強力に支援する「国際卓越研究大学」に東北など数校を認定する方針。計25大学が選ばれた地域中核研究大はこれに準じる位置付けであり、弘大は国の研究支援先としてトップ30に入

対し「ウェルビーイングは時代のキーワード。その研究で一番を目指す」と答えた。今後見込まれる成果として、ビッグデータを生かしたQOL(健康・生活の質)の発展途上国への普及や、リチウムイオン電池や廃プラスチックの再資源化実現などを挙げた。(赤田和俊)

たことになる。東北地方で選ばれたのは弘大と山形大だけ。福田真作学長は27日の会見で「全国800以上ある大学の中から25校に選ばれた。学生や研究者を弘前の地に呼び込む原動力になる」と話す。文科省の資料によると40年の18歳人口は今の2割減の88万人になると予想されており、大学の統廃合は避

弘大には学生約7千人、教職員約2千人、事務職員・技術職員約1200人が在籍。大学立地のメリットも学生らの消費活動以外にも教育水準の向上や産業振興、地域の人材育成などが挙げられ、なかなった場合の損失は大きい。弘大の研究が世界的な成果を挙げれば、国際的な研究都市としてさらに発展することも期待できる。(赤田和俊)